

月刊

書字文化

～日本書字文化協会機関紙 No84～

令和2年（2020年）



12月号

（編集長・渡邊啓子）

目次

- ◇大平会長あいさつ 2
- ◇第9回総合大会の中央審査会開く 3
- ◇加藤中央審査委員長講評 4
- ◇審査会風景 4
- ◇第9回伝統文化大会の開催について 5
- ◇第9回総合大会特別賞受賞リスト 6
- ◇記念アルバム・表装申し込み 10

一般社団法人日本書字文化協会（書文協）

本部 〒164-0001 東京都中野区中野 2-11-6 丸由ビル 3階
電話 03-6304-8212 / FAX 03-6304-8213
メール info@syobunkyo.org
ホームページ <http://www.syobunkyo.org>

第9回全国書写書道総合大会の特別賞全受賞者リストを掲載しました。（6ページから）

ご挨拶

一般社団法人日本書字文化協会
会長 大平 恵理

書写書道の学び、楽しくやりましょう



コロナ感染が拡大しています。社会活動は、経済はどうなるのか心配ですね。場合によっては、学校も再び閉校措置が取られるかもしれません。でも困難、試練に耐える力を養うチャンスです。前向きにとらえて元気にいきましょう。

ただ、平常時でも思っていることですが、書写書道の学びは、もっと楽しくなくてははいけません。「止め、はね、払い」など細かいルールに縛られて、とても大変だと思いませんか。ほんの数ミリの線の違いに神経を払わなくてははいけません。こんなマニアックなことは、この時節、やってられないよ、と思われては困ります。

まず言いたいのは、文字書きを習うのは、表現のためです。それぞれの個性がにじむ書き文字で表現するためです。書き文字の良さをしっかり押さえましょう。表現するには、まず書き手の心が楽しくなければ良い表現はできません。

ですから、手本通りに書かなくてはいけないわけではありません。字形で良し悪しが決まりがちなコンクールで賞を取るために学んでいるものではありません。書文協はコンクールの目的を「仲間同士の切磋琢磨で自分を磨く」としています。頑張るのは良いことです。しかし、結果が出たら賞にこだわらないことです。

今の学校教育で「アクティブラーニング」の大切さが言われています。文部科学省の用語解説によれば、アクティブラーニングとは「教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称」です。書写書道の学びで言えば、字形の整い方ばかりに重きをおいた教え方ではいけない、ということだと思います。全日本書写書道教育研究会（加藤東陽会長）の理事長で共に書文協中央審査委員でもある元文科省教科調査官・長野秀章先生は「(字形を直すための) 朱墨を捨てよ」と表現しました。

少し、難しくなってしまいましたが、学ぶ人の能動的な「(表現したいという) 意欲」を大事にした学びにしたいと思います。そのためには、まず楽しくあらねばなりません。

第9回全国書写書道総合大会

応募数5962点、各特別賞など決まる

今回で9回目となる全国書写書道総合大会（書文協主催、文字・活字文化推進機構共催、文部科学省など後援）は、コロナ禍の影響で後ろ倒しの実施となり、10月23日に応募が締め切られました。

応募数5962点は前回に比べ45%でした。この非常時にもかかわらず、多くの人から応募いただき、ありがとうございました。コロナ禍は年末になっても拡大の様相です。しかし、書文協は防疫を完璧に行いながら、書写書道の学びは止めず、全国検定・ライセンス試験、各書写書道コンクールなどを実施してまいります。

規模縮小し中央審査会開催

同総合大会の中央審査会は規模を大幅に縮小した形で10月29日、東京都内の施設で開催されました。中央審査委員会からは加藤東陽委員長、辻眞智子副委員長のみの出席とし、団体指導者の招請、会員希望者への審査会公開も今年は見送りました。ご了承ください。

審査は例年通り極めて厳正に行われ、文部科学大臣賞7本など特別賞が選ばれ、優秀特選ベスト、特選、金・銀・銅賞も決定しました。12月初旬までには、各団体・個人に賞状（副賞あるものは含む）が届けられる予定。（上位賞の名簿は6～9ページ）

コロナ禍で開催に困難を極めたのは学生書写書道展の席書大会。どこも事故なく済んだのは幸いでした。防疫に注意を重ねられた指導者の皆様に厚くお礼申し上げます。また、参加者には参加証として写真のメダルバッジを進呈することにしました。



応募数	
ひらがな・かきかたコンクール	2701点
学生書写書道展	
席書の部	339点
公募の部	333点
全国硬筆コンクール	2529点
合計	5962点



加藤東陽・中央審査委員長講評



この時期に、事故なく大会を開催できたことは高く評価したいと思います。出品数は半減したそうですが、作品のレベルは落ちていません。皆さんよく練習できています。指導がしっかりされていることが分かります。

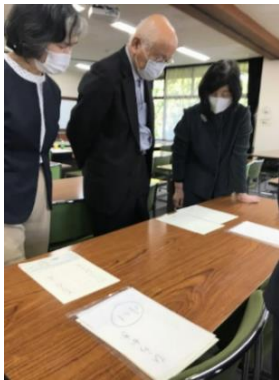
今回の作品を見ての感想と主な注意点です。

まず、文字の大きさです。硬筆では、基本点画はよく書けているのに、マス目いっぱいには書いている作品が気になりました。漢字は大きめ、ひらがなは小さめに書くなど、文字の大きさを考えて書きましょう。

「交わり方」では、横線に縦線が交わる場合、横線の左右の長さが極端にどちらかが短くなっていないか注意しましょう。「筆圧」にばらつきがあると、作品にまとまりがなくなってしまう。

文字は、線の長い・短い、空間の広い・狭いなどをcm単位、硬筆などではmm単位で書いていきます。しかも算数や数学のように定規を当てることもなく、フリーハンドの手書きです。練習でも清書でも、もちろん書くときは、長い、短い、広い、狭いなどに気を付けて書きますが、書き終えた後は、作品全体を見るようにして、行の中心や文字の大きさ、空間の取り方などに目を向けるのがよいです。

「余白」の取り方も大切です。特に高校・大学・一般の課題は枠の中に課題文を収めるので、「余白」をどうとるかを考えて書きましょう。中でも、かな作品では余白が重要です。



硬筆の審査

(右から辻副委員長、加藤委員長、大平会長)



毛筆の審査



特別賞の最終審査

優秀作品展示・表彰・交流会は中止

次ページで第9回伝統文化大会関連イベントの開催条件を掲載しましたが、それに先立つ総合大会関連も同様の措置を取ることにしています。優秀作品の展示・表彰・交流会は東京・中野で開催予定でしたが、東京での警戒レベルが最高の4に引き上げられており、全国から集まるイベントはとても無理と判断しました。ご了承お願い申し上げます。

今後、ホームページ上での紹介充実、月刊書字文化上での交流意見発表会等を企画してまいります。是非、ご参加ください。

第9回伝統文化大会開催について

全国書写書道伝統文化大会（全国年賀はがきコンクール、全国学生書き初め展覧会）は令和3（2021）年1月22日応募締め切りで開催されます。新型コロナの感染拡大傾向が続いています。書文協としての対応、お願いを早くお知らせしたく、以下を掲載するものです。

各団体へのお願い・一審の充実を

応募前の各団体による1次審査は8割近い団体で行われており、その結果は尊重されます。また実施団体には出品料の5%が割り引かれます。特別の事情がない限り1審を実施してください。各団体の審査力向上は書文協の目標でもあります。今回の大会では、書文協はこの1審を最大限に尊重して中央審査会の準備を進めます。各団体に、充実した1審の実施をお願いする次第です。

中央審査会、優秀作品展示・表彰・交流会開催方法

審査会（2021年1月末予定）、展示・表彰・交流会（以下・交流会、同年3月初旬予定）とも東京都内での開催を予定しています。このため、基本的には、特措法に基づく国の緊急事態宣言の有無、東京都の警戒レベルに対応します。

◆緊急事態宣言が出ている場合

- ・審査会 集合しての審査会は開かない。写真による第一次審査、それに続く持ち回り審査によって決定する。
- ・交流会 開催しない。その場合は、書文協ホームページで、入選者の紹介等出来る限り詳報する

◆緊急事態宣言が出ていない場合

- ・審査会 東京都の警戒レベルが2以上の場合は、第9回総合大会と同じく、縮小した規模で開催する。
- ・交流会 東京都の警戒レベルが2以下で、かつ全国的に見ても関係者の列車、航空機等の移動に問題がないと判断される場合に、開催する。その決定は2月中旬に行い、告知する。

◆開催する場合

- ・審査会、交流会に共通に守る事項
- ① 体温が37.5度を超える人は参加を見合わせてもらう（会場に入る前にも測定する）
 - ② 除菌剤の設置、除菌作業を徹底する
 - ③ 会場定員は通常設定の2分の1とし、人選する
 - ④ 一定間隔での換気を行う。

<審査会> 警戒レベル2以上は

- ① 中央審査委員は正副委員長のみ出席
- ② 関係団体指導者の招請はしない
- ③ 希望会員の審査会傍聴は行わない。

<交流会・展示会>

フリー入場形式は取らず、出品者と付き添いに限定されている表彰・交流会場で開く。

第9回総合大会特別賞全受賞者リスト

特別賞受賞者は123人

同大会の特別賞（文部科学大臣賞から教育特別奨励賞まで）受賞者は個別コンクールは「ひらがな・かきかたコンクール」13人、「全国学生書写書道展」32人、「全国硬筆コンクール」73人。学生展（毛筆）、硬筆コン（硬筆）共に優秀だった人に贈られる「総合の部」の書字文化賞（トップは文部科学大臣賞）は5人の合計123人でした。受賞者の皆さん、おめでとうございます。

応募者全ての人に特別賞のほかに本賞（特選、金・銀・銅賞）など何らかの賞状が贈られます。コロナ禍の非常時に頑張った記念として大切に保管してください。

全応募作品の記念アルバム・表装を頒布

応募作品は主催者に帰属しますが、すべての応募作品について、ご希望の方に記念アルバム（硬筆）、表装（毛筆）を有料頒布します。どうぞお申し込みください。

❖ 総合の部・書字文化賞（5人）



賞名	学年	受賞者	学校名
文部科学大臣賞	小5	米田 琴音	大阪府・吹田市立岸部第二小
書字文化賞	小1	小池 幸	東京都・淑徳小
書字文化賞	小3	平野 理央	東京都・光塩女子学院初
書字文化賞	年長	新子 彩良	大阪府・吹田市立岸部保育園
書字文化賞	高2	鮫島 世玲菜	東京都・光塩女子学院高

❖ 令和2年度ひらがな・かきかたコンクール（13人）

賞名	学年	受賞者	学校名
文部科学大臣賞	年中	緒方 こはる	福岡県・花畑幼稚園
文部科学大臣賞	小3	土田 梨乃	東京都・足立区立伊興小
大賞	年長	馬場 美咲	福岡県・平野保育園
全国連合小学校長会長賞	小1	小池 幸	東京都・淑徳小
全国連合小学校長会長賞	小2	三好 伶	福岡県・大野城市立月の浦小
全国連合小学校長会長賞	小3	平野 理央	東京都・光塩女子学院初
中央審査委員長奨励賞	年長	小林 夏望	大阪府・吹田市立岸部保育園
日本書字文化協会賞	小2	白木 ユリア	福岡県・福岡市立花畑小
文字・活字文化推進機構賞	小1	八田 有彩	新潟県・新潟大学附属長岡小
全日本書写書道教育研究会賞	小1	鈴木 富美	埼玉県・さいたま市立指扇北小
教育特別奨励賞	小1	藤井 芽歩	香川県・高松市立川東小
教育特別奨励賞	小2	青野 希	千葉県・浦安市立明海南小
教育特別奨励賞	小3	伊藤 彩愛	東京都・墨田区立柳島小



❖ 令和2年度全国学生書写書道展 (32人)

賞名	部門	学年	受賞者	学校名
文部科学大臣賞	席書	小6	山内 紬良	愛知県・刈谷市立東刈谷小
文部科学大臣賞 大賞	公募	高1	峯田 彩世	東京都・宝仙学園高
中央審査委員会賞	公募	中2	林 佑衣	三重県・川越町立川越中
日本書字文化協会会長賞	席書	小3	平野 理央	東京都・光塩女子学院初
文字・活字文化推進機構理事長賞	公募	大1	大平 麗雅	東京都・日本社会事業大学
全国連合小学校校長会長賞	席書	小4	杉浦 由佳	愛知県・刈谷市立かりがね小
全国連合小学校校長会長賞	席書	小1	小池 幸	東京都・淑徳小
全国連合小学校校長会長賞	席書	小2	河野 心晴	福岡県・福津市立津屋崎小
全国連合小学校校長会長賞	公募	小3	清水 莉瑚	大阪府・吹田市立北山田小
全国連合小学校校長会長賞	席書	小4	本橋 由香里	東京都・中野区立桃花小
全国連合小学校校長会長賞	席書	小5	中村 陽歩	東京都・青梅市立河辺小
全国連合小学校校長会長賞	公募	小6	関口 美夢	東京都・青梅市立第二小
全日本中学校校長会会長賞	公募	中1	服部 讚吾	三重県・川越町立川越中
全日本中学校校長会会長賞	公募	中2	鈴木 苺亜	東京都・中野区立中野東中
全日本中学校校長会会長賞	席書	中3	飯田 桃子	福岡県・福津市立津屋崎中
全国高等学校長協会会長賞	公募	高1	高橋 俊介	埼玉県・県立桶川高
全国高等学校長協会会長賞	公募	高2	鮫島 世玲菜	東京都・光塩女子学院高
全国高等学校長協会会長賞	公募	高3	大平 知雅	東京都・二松學舎大学附属高
全日本書写書道教育研究会会長賞	公募	中3	竹内 諒	東京都・羽村市立羽村第一中
中央審査委員長奨励賞	公募	小5	米田 琴音	大阪府・吹田市立岸部第二小
日本書字文化協会賞	席書	中1	本橋 明日香	東京都・中野区立桃花小
日本書字文化協会賞	公募	高3	石原 颯	東京都・明治大学附属中野高
文字・活字文化推進機構賞	公募	小4	小池 結	東京都・淑徳小
文字・活字文化推進機構賞	席書	小6	鮫島 麻里菜	東京都・光塩女子学院初等
全日本書写書道教育研究会賞	公募	年長	新子 彩良	大阪府・吹田市立岸部保育園
全日本書写書道教育研究会賞	公募	高2	入江 亜衣	大阪府・府立春日丘高
全日本書写書道教育研究会賞	公募	高3	植田 惇平	大阪府・早稲田撰陵高
教育特別奨励賞	席書	小6	佐野 未旺	愛媛県・松山市立久米小
教育特別奨励賞	公募	中2	浦野 なつ	和歌山県・和歌山市立明和中
教育特別奨励賞	席書	中3	保田 はる	大阪府・大阪市立夕陽丘中
教育特別奨励賞	公募	高3	近藤 乃愛	秋田県・聖霊女子短期大学付属高
教育特別奨励賞	公募	大4	岡山 瑠々	徳島県・徳島大学



❖ 令和2年度全国硬筆コンクール (73人)

賞名	学年	受賞者	学校名
文部科学大臣賞	小6	真島 舞子	福岡県・春日市立春日東小
文部科学大臣賞	中3	保田 はる	大阪府・大阪市立夕陽丘中
中央審査委員会賞	高3	田口 はるな	埼玉県・県立春日部女子高
日本書字文化協会賞会長賞	大学	武山 彩花	東京都・明治大学
文字・活字文化推進機構賞理事長賞	小学	小池 幸	東京都・淑徳小
全国連合小学校長会長賞	小1	橋本 昊明	大阪府・吹田市立千里第一小
全国連合小学校長会長賞	小2	高津 康成	神奈川県・森村学園初
全国連合小学校長会長賞	小3	土田 梨乃	東京都・足立区立伊興小
全国連合小学校長会長賞	小4	本多 理人	埼玉県・草加市立氷川小
全国連合小学校長会長賞	小5	米田 琴音	大阪府・吹田市立岸部第二小
全国連合小学校長会長賞	小6	中野 明舞音	大阪府・吹田市立千里第一小
全日本中学校長会会長賞	中1	倉田 光瑠	埼玉県・草加市立谷塚中
全日本中学校長会会長賞	中2	栗山 愛加	福岡県・大野城市立平野中
全日本中学校長会会長賞	中3	大柿 幸大	大阪府・吹田市立片山中
全国高等学校長協会会長賞	高1	浦部 天音	神奈川県・森村学園高
全国高等学校長協会会長賞	高2	植木 萌心	新潟県・県立長岡高
全国高等学校長協会会長賞	高3	植田 惇平	大阪府・早稲田撰陵高
全日本書写書道教育研究会会長賞	年長	大倉 唯来	茨城県・堀川保育園
全日本書写書道教育研究会会長賞	小4	大串 愛莉	福岡県・大野城市立月の浦小
全日本書写書道教育研究会会長賞	中1	田中 琳子	三重県・四日市市立朝明中学校
中央審査委員長奨励賞	小3	平野 理央	東京都・光塩女子学院初等科
中央審査委員長奨励賞	中2	植田 慎二郎	大阪府・吹田市立片山中
中央審査委員長奨励賞	一般	吉岡 亜季	兵庫県
日本書字文化協会賞	年長	宮川 麻子	保育所ちびっこランド 南大分園
日本書字文化協会賞	小4	小池 結	東京都・淑徳小
日本書字文化協会賞	小6	松澤 凜桜	埼玉県・草加市立谷塚小
日本書字文化協会賞	中2	熊本 結菜	福岡県・大野城市立平野中
日本書字文化協会賞	高2	佐藤 楓	神奈川県・森村学園高
文字・活字文化推進機構賞	小5	庄司 帆夏	埼玉県・所沢市立西富小
文字・活字文化推進機構賞	中3	陽 麻衣佳	大分県・大分大学教育学部附属中
文字・活字文化推進機構賞	高1	坂本 百合	神奈川県立川和高
文字・活字文化推進機構賞	大学	植西 美侑	京都府・立命館大学
文字・活字文化推進機構賞	一般	榎本 蒼	大阪府
全日本書写書道教育研究会賞	小1	横尾 芽依	福岡県・福岡市立草ヶ江小
全日本書写書道教育研究会賞	小2	石山 莉子	埼玉県・草加市立新田小
全日本書写書道教育研究会賞	小3	甲津 心	埼玉県・さいたま市立辻南小

全日本書写書道教育研究会賞	小5	杉浦 由佳	兵庫県・西宮市立上甲子園小
全日本書写書道教育研究会賞	中1	猿樂 真央	埼玉県・さいたま市立指扇中
全日本書写書道教育研究会賞	高1	宮田 桃子	神奈川県・湘南学園高
全日本書写書道教育研究会賞	大3	小松原 美桜	奈良県・奈良女子大学
教育特別奨励賞	小1	栗田 采果	神奈川県・森村学園初
教育特別奨励賞	小1	菅原 華	神奈川県・森村学園初
教育特別奨励賞	小1	石橋 優吾	神奈川県・森村学園初
教育特別奨励賞	小2	北村 紗千	神奈川県・森村学園初
教育特別奨励賞	小2	浅里 芽依	神奈川県・森村学園初
教育特別奨励賞	小2	恩田 そら	神奈川県・森村学園初
教育特別奨励賞	小3	高地 智仁	神奈川県・森村学園初
教育特別奨励賞	小3	水落 葵	神奈川県・森村学園初
教育特別奨励賞	小3	沖原 菜乃	神奈川県・森村学園初
教育特別奨励賞	小3	池田 乃彩	千葉県・浦安市立明海南小
教育特別奨励賞	小4	藤巻 結愛	神奈川県・森村学園初
教育特別奨励賞	小4	長谷川 舞	神奈川県・森村学園初
教育特別奨励賞	小4	大田 里音	神奈川県・森村学園初
教育特別奨励賞	小4	所 隼平	埼玉県・越谷市立越ヶ谷小
教育特別奨励賞	小4	田代 南実	熊本県・熊本市立黒髪小
教育特別奨励賞	小5	高津 康一	神奈川県・森村学園初
教育特別奨励賞	小5	酒井 芭琉	神奈川県・森村学園初
教育特別奨励賞	小5	山口 麟太郎	神奈川県・森村学園初
教育特別奨励賞	小5	高橋 凜太郎	千葉県・市原市立市原小
教育特別奨励賞	小6	長谷川 さら	神奈川県・森村学園初
教育特別奨励賞	小6	川口 詩乃	神奈川県・森村学園初
教育特別奨励賞	小6	玉木 愛	神奈川県・森村学園初
教育特別奨励賞	小6	林田 佳音	神奈川県・森村学園初
教育特別奨励賞	小6	芳沢 啓太	神奈川県・森村学園初
教育特別奨励賞	小6	橋本 瑠愛	熊本県・熊本市立城南小
教育特別奨励賞	中1	本間 光	神奈川県・湘南学園中
教育特別奨励賞	中2	濱野 珠希	神奈川県・湘南学園中
教育特別奨励賞	中3	岩渕 里咲	神奈川県・湘南学園中
教育特別奨励賞	中3	鈴木 琴音	神奈川県・湘南学園中
教育特別奨励賞	中3	大塚 凜	東京・淑徳SC中
教育特別奨励賞	高1	山本 幸香	神奈川県・湘南学園高
教育特別奨励賞	高2	金澤 茎未	神奈川県・湘南学園高
教育特別奨励賞	一般	温井 正義	徳島県



記念アルバム・表装の受付

応募作品は主催者に帰属しますが、ご希望の方には、学びの記念として硬筆作品の特製アルバム、毛筆作品の表装の申し込みを受けています。各団体・個人出品者について、それぞれ詳細な申込説明書と申込書が審査結果一覧と共に配られています。ご参照ください。

「表現」の証として

書文協では、コンクールについて「表現する」ことが大事なポイントと考えています。作品を仕上げるということは、まさに表現することにほかなりません。この観点から、作品を表現物として残すために特製アルバム、表装作成に取り組んでいます。そしてまた、これらのアルバム、表装は学びの軌跡を残すものともなります。皆さん、お申込み下さい。

申し込み締め切りは 12 月 28 日必着

主なポイントは以下の通りです。

◆代金

<特製アルバム>

自筆作品	3900 円 (税込み)
複製作品	2900 円



<表装>

	半切	八ツ切/半紙/六ツ切
本表装	9,000 円	8,000 円
略式表装	3,000 円	2,500 円



◆申込時期など (共通)

申込締め切り 令和 2 年 12 月 28 日 (月) 必着 生徒から団体への申し込みはそれ以前。
納期は申し込みから約 1 ヶ月後